

## ～みなさん「想い」を聞いてください～

2015年度 第27回たかみや人権文芸賞入選作品

### 朝霧の中より聞こゆ 子等の声

### 晴れば広がる 笑顔と絆

2011年3月11日 午後2時46分 最大震度 7、マグニチュード9.0あの東日本大震災から11年目。当時、ニュースでは、仙台空港に津波が押し寄せてくる様子や、ある海岸では、どす黒く濁った波が防波堤を超えて、次々に民家を粉々になぎ倒し、押し流していく様子など、初めて見る津波の破壊力の凄さが、脳裏に焼き付いています。更に、忘れてはならないことがあります。それは、福島第一原子力発電所の事故です。未だに、立ち入ることが出来ない区域があります。ふるさと福島に帰れない人、やむなく離れた人、さまざまな思いを考えると、なんとも言えない気持ちになります。改めて、原発はいったん暴走すると人間の力では、コントロールできないことを肝に銘じ、原発災害の重大さを決して忘れてはいけません。



#### ◆入院に思う (荒川センター長)

私事ですが昨年10月に、人生で初めて入院と手術を経験しました。いままで、健康診断の問診で「入院も手術もしたことがない」と答えてきたのですが、その記録もやむなくストップとなってしまいました。

入院当日、荷物をまとめ、高速バスへ乗り込みました。バスでの移動中は、色々な事を考えました(入院嫌だな・・・、手術嫌だな・・・、無事に戻れるかな・・・、そういえば、バスに乗るのは何年ぶりだろう?など)。途中からは、きりがないので、「なるようになる」と割り切り、深くは考えないようにしました。そこから、退院まではあっという間に過ぎました。

コロナ禍でもあった為、入院中や手術当日も、家族の面会は禁止となっていました。

手術日、家族はとても不安だったと思います。私は、「たいした事ではないから大丈夫、大丈夫。」と家族に言ったはものの、とても緊張していたのを覚えています。

手術後は、麻酔がきれてからがとても大変でした。呼吸がとにかく、痛いのです。「呼吸が痛い」、普段、考えた事ありませんでした。その後、一日ごとに良くなっていき、人間の回復力とはすごいものだと思ったものです。

今回の入院で、日常の通常の生活のありがたさと、家族や職場などの周りの方に支えてもらっている事のありがたさを改めて思いました。

また、病院では、コロナ対策が徹底されており、コロナ禍での医療現場の大変さを

とても感じました。厳しい状況のなか、医療従事者の頑張っている姿に尊敬と感謝あるのみです。

コロナ感染拡大から3年目に入りました。いまだに収束が見通せない状況となっています。1日も早くコロナが収束し、通常の生活を取り戻せる事を願っています。

### ◆断捨離から学ぶ…物の整理は、まず、心の整理から（八島指導員）

2020年、墓地の移設と庭木の整理。2021年、はん屋の解体と畑の防草シート張り。併せて、母屋の風呂場の改修を実施しました。先日は、駄屋の一部について、母親が野菜を収穫し、農協へ出荷するための作業場として使用しています。この作業場の整理を妻と2人で行いました。この中には、民俗資料館で見るとような木製の農具、昔の秤、精米機械、そして、とても懐かしい物がありました。餅つき用の機材一式（昔は、地面に設置した常設の石臼、とシーソー（遊具）のような方法で、木馬に似た形の杵（全長2m～2.5m）の端を、足で踏んで餅をつく）が出てきました。昔、正月前には、この場所で、祖母を中心に家族みんなで、もちをついたことを思い出しました。祖母が臼の中の餅を捏ねる役です。私は、当時は、子どもでしたので、父親がつく（踏む）、横で遊びの延長程度で手伝いと言うか邪魔というか・・・楽しんで餅つきをしたことを思い出しました。

廃棄する物しない物を含めて、一旦、ダヤの外に出しました。その数日後、父親が、その中にあった、昔、大工をしていた錆びついた道具一式と祖母のゲートボールのスティックを、その中から取り出して、「これは残しておいてくれ」と私に話をしました。「どうせつかわんじゃろ」とは思いましたが、そこには、昔、苦労を共にした大工道具、母親の使っていたスティックへの思いがあり、廃棄できなかつたのだと思います。私にしても同じです。この整理した物の中には、祖母が書いた日記の一部がありました。正直、「どうしようか」迷いましたが、結局、きれいセンターに搬入しました。搬入する時は、「ばあちゃんすまんのぉ」と心の中で一言わびて、廃棄しました。昔の物を整理することは、そこにその人それぞれの思いがあり、なかなか廃棄することがむずかしいものだと感じています。しかし、もし整理できなければ、物がたまり先には進めません。断捨離することは、自分と向き合い気持ち（こころ）を整理することが大切だと感じました。

追伸、いつも家庭のピンクのごみ袋を見ると「なんと、プラスチック製包装類の多いこと」・・・つい思ってしまいます。それだけ、日常生活の中でプラ製品が使われていることの証です。衛生的で便利な点はいいのですが、環境問題、取り分け、人間生活・経済活動がもたらす「海洋プラスチック問題」は、世界的な大きな課題です。関係ないでは済まされない状況です。少なくとも、自分に出来ること、外で出たごみは家に持ち帰り、分別し「きれいセンター」へ出す。日常生活で出来るだけ再利用できる物を選ぶなど、意識して実践していくようにします。